

☆☆☆ おかげで会発足1年を迎えました☆☆☆

まだ暗い内に一番鶏の声を遠くに聞き、鳥のさえずりではっきり目覚め、しかしまだ床の中でぐずぐずしていると、だめ押しのように竹製の床の下からびっくりするようなおんどりの時を告げる声。ミンダナオの山岳部にある先住民コミュニティの朝が始まりました。

1週間ほど前ビラーン族に隣り合うチポリ族の集落を訪れて、伝統社会の長老でもあるシチオリーダー(町内会長さん?)の家に一晚泊してもらった時のことです。庭ではすでに朝食用の米を臼でついていました。

現地を訪れる度に、生きるためにどうしても必要なもの、あるいはすべきことは案外少なくないのだと思われ知らされます。支援とか援助と云う言葉を使っていますが、NGO(非政府機関 Non Governmental Organization)活動は、便利な社会に生きる私たちが自らを振り返る場でもあるようです。

しかし一方で、交通、通信の発達により、あるいは、国家や企業の利益追求の前に、ビラーン族の人々が昔ながらの自然と調和したシンプルな生活を続けられなくなっているのも事実で、人間の尊厳を保って生きられるように、資金や技術面、あるいは地元政府への働きかけや世論に訴えて「支援」することがNGO活動の中心にあることも確かでしょう。

「ビラーン族の医療を支える会」はこのような目的で昨年7月1日に設立させていただき、会員数こそ多くはありませんが、現地で直接支援にかかわるCMB(ビラーン・カトリック・ミッション)の神父やスタッフたちの住民に対する熱心で適切な指導により、現地では、医療のみならず、教育、生業振興等総合的に自立への歩みを進めております。このことはひとえに正会員を初めとして、奨学金支援その他のご寄付の形で支えて下さる賛助会員の皆様のおかげと会の発起人として心より感謝申し上げます。

支援はそれを終える日のために、を強く念頭に置いた結果、活動がかなり広範囲になってしまいました。これはCMBの方針でもあります。無料で医療を、だけでは支援はいつまでも終了できません。1年を経過した今、あらためて皆様のご意見を伺って、ビラーン族が民族の文化への誇りを保ちつつ、フィリピン社会で人間らしく生きていくお手伝いをしていきたいと思っております。

以下、3つほど課題を上げてみました。ご意見、ご助言どうぞお寄せ下さい。

◇名称について・・英語名(Health Assistance & Neighborhood Development Support 略称 HAN DS)は現在の活動内容を表していますが、日本語の名称は医療支援です。これを、活動実態に合わせて「ビラーンの医療と自立を支える会」と変えた方がいいのでは、と思っておりますがいかがでしょうか。今支援が必要な医療も、教育や生業振興などの自立支援事業を同時に推進することで、住民自身がその経費を負担できる日がくることでしょう。「ビラーン」の知名度が低いので、「ミンダナオ先住民の医療と自立を支える会」の方がよいという意見も伺っています。一方で、発足の原点を大切に考えると考えれば名称は変えない方がいいという考え方もできます。

いずれにしても、公式文書作成上必要な公印を近いうちに作りたく思っておりますので、名称を変えるならば、今がその機会ではないかと考え、皆様に提案させていただきました。

◇組織について・・医療や教育の充実を含めて自立支援プロジェクトを実施するため、公的私的助成機関の補助金を受けたいと思っておりますが、多くの機関は助成の条件として、活動実績2年以上とか会の組織化を求めています。

代表者の他、3~4人の理事と会計、会計監査が必要と考えられます。ご協力いただける方は是非お申し出下さい。

◇会費について・・医療活動を中心にした KLAWIL GUTNGA(サムラングに設立されたセンター・オブ・ライフ)の運営を支える正会員がまだ少なく、2か月に1回の送金(2か月分で\$1,800)は不足分を正会員、賛助会員のご寄付で補填させていただいております。センターの運営費には医薬品代、患者の